

**東三河振興ビジョン  
主要プロジェクト推進プラン**

**2018 年度の成果と主な取組状況**

# I 主要プロジェクト推進プランの策定状況

東三河振興ビジョンの核となる「将来ビジョン」では、将来ビジョンに位置付けた重点的な施策を具体化し、着実に推進していくため、毎年度、重点的に取り組むべき施策を1～2テーマ選定し、3箇年程度の実施計画を「主要プロジェクト推進プラン」として策定し、実施していくこととしています。

2012年度から2018年度までに10のプランが策定され、2018年度は、このうち、以下の4つのプランに基づく取組が進められました。

- ① 地方創生事業の広域展開（計画期間：2016年度～2019年度）
- ② 新東名インパクトを活かした地域振興（計画期間：2017年度～2019年度）
- ③ 「人が輝き活躍する東三河」の実現（計画期間：2018年度～2020年度）
- ④ 世界・全国レベルのスポーツ大会等を活かした地域連携（計画期間：2018年度～2020年度）

【各年度における主要プロジェクト推進プラン策定状況】

計画期間 策定年度	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023									
【将来ビジョン】 2013	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 10年後の東三河の目指すべき姿 豊かさが実感できる 輝く「ほの国」東三河</li> <li>○ 地域特性を活かし重点的に取り組むべき施策の方向性               <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 33%;">1. 東三河の魅力の創造・発信</td> <td style="width: 33%;">4. 安全・安心な地域づくり</td> <td style="width: 33%;">7. 地域力・連携力の発揮</td> </tr> <tr> <td>2. 豊かな自然の保全・再生</td> <td>5. 誰もが活躍できる地域づくり</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3. 地域産業の革新展開</td> <td>6. 地域を支える社会基盤の整備</td> <td></td> </tr> </table> </li> <li>○ 目標年次：2023年度</li> </ul>											1. 東三河の魅力の創造・発信	4. 安全・安心な地域づくり	7. 地域力・連携力の発揮	2. 豊かな自然の保全・再生	5. 誰もが活躍できる地域づくり		3. 地域産業の革新展開	6. 地域を支える社会基盤の整備	
1. 東三河の魅力の創造・発信	4. 安全・安心な地域づくり	7. 地域力・連携力の発揮																		
2. 豊かな自然の保全・再生	5. 誰もが活躍できる地域づくり																			
3. 地域産業の革新展開	6. 地域を支える社会基盤の整備																			
【主要プロジェクト推進プラン】 2013	広域観光の推進																			
2014	地域産業の革新展開 再生可能エネルギーの導入推進																			
2015	スポーツ大会を活かした地域振興 ① 地域連携によるスポーツ大会の新展開 ② 世界・全国レベルのスポーツ大会の招致 ③ スポーツ大会による地域振興 地域連携事業の戦略展開 ① アンテナショップ等を拠点とした地域ブランドの強化と販路拡大 ② 戦略的な加工食品開発による海外輸出の本格化 ③ 東三河シオパーク構想の推進																			
2016	地方創生事業の広域展開 ① 「ほの国」東三河ブランド戦略の推進 ② 産学官連携による産業人材の育成・確保																			
2017	新東名インパクトを活かした地域振興～広域観光の新展開～ ① 新東名インパクトの検証と活用 ② 観光に関わる基盤の整備と活用																			
2018	「人が輝き活躍する東三河」の実現 ① 誰もが能力を最大限に発揮できる環境づくりの推進 ② 人材の育成・確保 世界・全国レベルのスポーツ大会等を活かした地域連携 ① 世界・全国レベルのスポーツ大会等を活かして地域をもっと盛り上げる ② 「極上のスポーツフィールド・東三河」のイメージを拡散する																			
2019	交通基盤の整備と利便性向上に向けた地域連携の推進 ① 計画的な道路網整備 ② 地域公共交通の維持・確保 ③ リニア開業を見据えた豊橋駅利便性向上と中間駅の利活用																			

本資料は、2018年度におけるこれら稼働中のプランに掲げられている目標の達成状況及び取組結果をとりまとめたものです。

## Ⅱ 各プランの成果及び取組状況

### 1 地方創生事業の広域展開（計画期間：2016年度～2019年度）

#### (1) 主な取組

地域が連携して取り組むべき個別事業（リーディングプロジェクト）を2つ抽出し、県及び各市町村の地方創生総合戦略と連携し、地方創生に係る制度・施策を効果的に活用しながら、東三河地域への「新しいひとの流れ」を作ることを目指していくこととしています。

各プロジェクトの進捗状況と2018年度の主な取組は次の通りです。

#### プロジェクト① 「ほの国」東三河ブランド戦略の推進

○ 2つの主な取組を進めることとしています。

- (1) 東三河のブランドイメージ確立と相互共有
- (2) ターゲットを明確にした情報発信

○ 2018年度は、観光、スポーツ、ドラマのロケーション誘致を中心に、東三河地域のイメージ向上を促進する取組が進みました。

○ JRグループや愛知県、市町村、観光事業者が共同で、2018年10月1日から12月31日の3ヶ月間、「愛知ディスティネーションキャンペーン」を開催し、キャンペーンイチオシ企画や、周遊バス、観光列車等を実施しました。その結果、期間中の東三河地域における観光・レクリエーション資源利用者数は、前年比21.9%の増加となりました。

〈イチオシキャンペーン企画〉

- ・吉田城鉄櫓手筒花火特別放揚
- ・鳳来寺山 特別拝観プレミアムガイドツアー など

〈周遊バス〉

- ・東海道二川宿散策と紅葉&桜の競演「普門寺もみじ祭り」
- ・「蒲郡みかん」食べ放題とパワースポット・豊川稲荷&砥鹿神社参拝 など

〈観光列車〉

- ・武将隊列車 未来クリエイター☆信長（尾張一宮～長篠城）
- ・地元タイアップ観光列車 おいでん奥三河（豊橋～新城～東栄）
- ・DCコラボ列車 愛知☆静岡DCトレイン（名古屋～愛知御津～静岡）など

○ 蒲州市では、2019年3月27日（水）、蒲郡ふ頭11号岸壁に、世界を巡る豪華客船「ダイヤモンド・プリンセス」が初寄港し、船内見学会やステージイベント、お土産・物販ブースなどのおもてなしを実施しました。

○ 渥美半島では、2019年2月1日（金）～3月31日（日）の期間、東海地方で初めてとなる地元の食材を使った料理と絶景が楽しめるレストランバスを、全39回ツアーを運行し、延べ874人が参加しました。

○ 田原市では、2018年9月15日（土）～22日（土）の期間、各国の代表選手が戦うことから「サーフィンのワールドカップ」といわれる世界的なビッグイベント、「2018アーバンリサーチ ISA ワールドサーフィンゲームス」が開催され、世界42の国と地域から197選手が参加し、50,000人が来場しました。

- 東三河広域観光協議会と豊橋市が中心となって誘致活動を進め、2019年2月28日、古関裕而さんと金子さんをモデルにした連続テレビ小説「エール」の2020年度前期の放送が決定しました。
- 愛知県では、東京圏在住者に対し東三河の魅力を強く印象付け、東三河の知名度向上と観光客の増加を図ることを目的に、東京圏在住の若者に訴求力の高いインフルエンサー等を活用し、SNS等上で、東三河の観光資源を素材に情報発信・拡散させる取組を実施しました。また、住みやすさや経済的な豊かさなど、「東三河の快適な暮らし」伝えることができるデータを整理・分析し、東三河の魅力を「見える化」。そのデータを活用したリーフレット等の広報資材により情報を発信しました。

## **プロジェクト② 産学官連携による産業人材の育成・確保**

- 2つの主な取組を進めることとしています。
  - (1) 産業人材育成事業の活性化
  - (2) U I J ターン等による産業人材の確保
- 社会人キャリアアップ連携協議会では、各主体が実施している産業人材育成に向けた研修等の情報の一元化を図り相互利用を促進するなど、産業人材育成事業の活性化に向けた取組が進められています。2018年度は、シンポジウム、人材育成講演会、社会人キャリアアップ交流サロン（ジェネカフェ）が開催されました。
- 東三河広域経済連合会では、東三河地域の商工会議所・商工会が連携して、経営幹部及び管理監督者向けなどハイレベルのスキルや知識を習得できる人材育成セミナー「東三河産業アカデミー」を実施し、人材育成・経営・商品開発等をテーマとした20講座を開催しました。
- 豊橋商工会議所では、学生と東三河優良企業との出会いの場を創出することを目的とした「東三河学生就職NAVI」や、地域産業の振興と雇用拡大の一助として、求人・求職者双方のニーズに合わせたきめ細かい支援を進めるため「無料職業紹介所」を運営し、東三河地域の企業の人材確保に向けた取組を進めています。
- また、地域の社会人が、職業の内容や地域で働く役割・意義などを中高生に伝えることで、生徒が将来や職業を考えるきっかけを創出する「ビジネスパーク」を開催しました。
- 東三河広域連合は、学生が就職や仕事について考える機会をつくとともに、学生に地元企業の魅力を知っていただくため、学生が地元企業と気軽に交流できる「まじカフェ」を開催しました。
- また、豊橋商工会議所は、お昼休みに学食でランチを食べながら、学生と企業が少人数で交流するサービス「モグジョブ」を開始しました（愛知大学豊橋キャンパス、豊橋技術科学大学、豊橋創造大学）。
- 愛知県では、大都市圏からの若者の流入を促進するとともに、地元企業の採用力向上と若者の円滑な就職活動を双方から支援することで、東三河地域の産業人材の確保と若者の定住を促進しました。具体的には、東京圏に在学中の学生を対象とした「東三河しごと体感ツアー」や「東三河ワーク×ライフ発見フェア」、東三河の魅力や課題、将来のあり方などをテーマに学生と話し合う「東三河ワーク×ライフスタイル研究会」、現役世代と保護者世代との就活事情の違い等を学ぶ「保護者のための東三河就活準備セミナー」等を開催しました。

- また、三河山間地域への移住・定住を促進するため、地域における「なりわい」づくりを支援するとともに、三河山間地域と都市部をつなぐ仕組みとして「三河の山里サポートデスク」を設置し、移住促進や集落支援を図るとともに、テレビ・ラジオ・web等により情報発信し、認知度の向上や誘客促進を図りました。東京・有楽町のふるさと回帰支援センターで、あいちの山里への移住を考えてもらうセミナーを開催しました。

## (2) さらなる地方創生事業の広域展開に向けて

- 2016年度から2018年度にかけて、国において地方創生推進交付金の当初予算が毎年度1,000億円計上され、全国の都道府県や市区町村で事業が展開されています。東三河地域においても様々な事業が実施され、なかでも、リーディングプロジェクトである「『ほの国』東三河ブランド戦略の推進」及び「産学官連携による産業人材の育成・確保」は、いずれも重要課題であり、多様な取組が展開され、地方創生事業の広域展開が着実に進められてきました。
- 「『ほの国』東三河ブランド戦略の推進」については、2016年度に、東三河8市町村が連携した全国規模の「海フェスタ東三河」の開催、2017年度に、県や市町村等による「あいち花フェスタ in 東三河」の開催、2018年度には、JRグループや県、市町村、観光事業者による「愛知ディスプレイションキャンペーン」の開催など、様々な取組が進められました。
- 「産学官連携による産業人材の育成・確保」については、2015年度から継続して、社会人キャリアアップ連携協議会による産業人材育成事業の活性化、東三河広域経済連合会による東三河産業アカデミーの実施、2017年度には、豊橋市・蒲郡市・東三河広域連合による「まじカフェ」・「あうカフェ」の開催、2018年度には豊橋商工会議所による「モグジョブ」の開催など、様々な取組が進められました。
- 一方で、「住民の転出超過」や「観光入込客数の伸び悩み」、「地元企業の採用難」など、東三河地域の課題も見られます。
- 本推進プランの計画期間は残り1年間となりますが、2019年度策定の主要プロジェクト推進プラン「地域連携による地方創生事業のさらなる推進」も視野に入れ、上記の課題解決に向け、引き続き、各主体が情報をしっかり共有し、連携を強化しながら取組を進めていく必要があります。

## 2 新東名インパクトを活かした地域振興（計画期間：2017年度～2019年度）

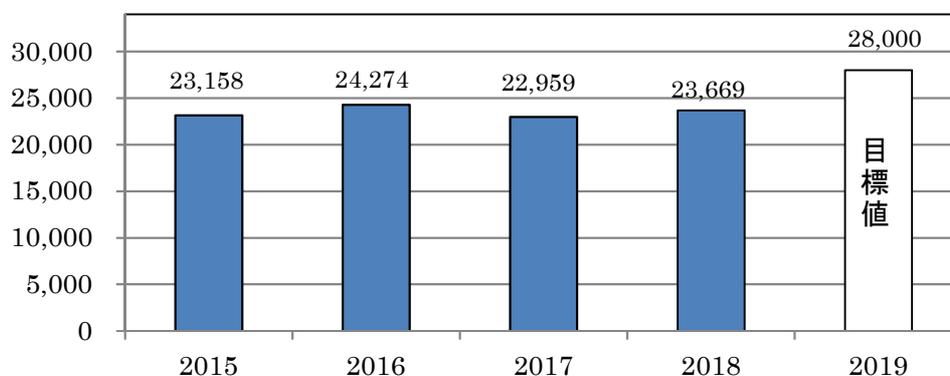
### （1）目標達成状況

項目	数値目標	計画当初	達成状況
目標1 観光入込客数	28,000千人 (2019年)	23,158千人 (2015年)	23,669千人(速報値) (2018年)
目標2 宿泊者数	2,700千人 (2019年)	1,999千人 (2015年)	2,235千人 (2018年)
目標3 道の駅の売上額	2,000百万円 (2019年度)	1,737百万円 (2015年度)	2,035百万円 (2018年度)

#### 目標1 観光入込客数の増加

- 観光入込客数については、2015年から約480万人増加させ、2019年には28,000千人とすることを目標としています。
- 2018年の観光入込客数は、23,669千人となりました。悪天候によるイベントの中止や施設改修による休業などの影響で大きく減少した2017年よりも710千人増加したものの、2015年から511千人の増加に留まりました。
- 新東名愛知県区間の開通に加え、三遠南信自動車道や国道23号バイパス等の整備が着実に進んだことで、観光客入込数の増加が見込まれていましたが、現状では横ばいとなっています。

観光入込客数の推移と目標値（千人）

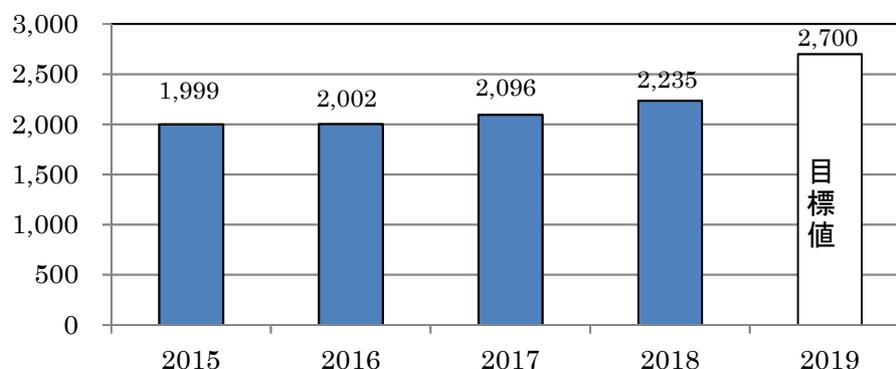


「愛知県観光レクリエーション利用者統計」より東三河分を抜粋。

## 目標2 宿泊者数の増加

- 宿泊者数については、2015年から約70万人増加させ、2019年には2,700千人とすることを目標としています。
- 2018年の宿泊者数は、2,235千人となり、2015年から236千人増加しました。外国人宿泊者の増加に加え、民間資本による宿泊施設の新規開業等により、宿泊需要を引き受けられる環境整備が進んだことも、宿泊者数増加の要因となっていると考えられます。
- しかし、宿泊者数は現状で伸び悩んでおり、数値目標とも大きく乖離があります。
- 2019年は、ホテルルートイン新城（2019.1）、A Bホテル田原（2019.1）、ラグーナベイコート倶楽部ホテル&スパリゾート（2019.3）、A Bホテル蒲郡（2019.7）が開業し、宿泊者数の大きな増加が期待できます。

宿泊者数の推移と目標値（千人）

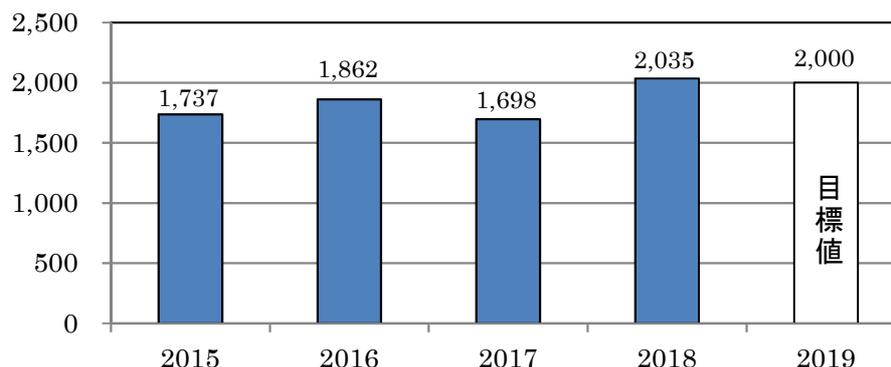


愛知県東三河総局調査による。

## 目標3 道の駅の売上額の増加

- 道の駅の売上額については、2015年度から約2.6億円増加させ、2019年度には2,000百万円とすることを目標としています。
- 2018年度の道の駅の売上額は、2,035百万円となりました。特産品の商品開発や施設改修によるリニューアルオープン等の影響により、2015年度から298百万円の増加となり、目標を達成しました。
- 2019年5月には豊橋市に道の駅「とよはし」が開設され、2020年度には設楽町に新設が予定されており、今後も売上額の増加が見込まれます。

道の駅の売上額の推移と目標値（百万円）



愛知県東三河総局調査による。

## (2) さらなる新東名インパクトを活かした地域振興に向けて

- 新東名愛知県区間の開通に加え、三遠南信自動車道や国道 23 号バイパス等の整備が着実に進んだことで、観光客入込数の増加が見込まれていましたが、現況では横ばいとなっており、各観光資源の磨き上げや PR など、地域が一体となった取組のさらなる推進が必要な状況となっています。
- また、宿泊者数については、現状で伸び悩んでいるものの、2019 年には、ホテルルートイン新城（2019.1）、A B ホテル田原（2019.1）、ラグーナベイコート倶楽部ホテル&スパリゾート（2019.3）、A B ホテル蒲郡（2019.7）が開業し、宿泊者数の大きな増加が期待できます。
- こうした契機を確実にとらえ、東三河の地域資源を活かし、広域観光エリアとしての周遊性を一層高めつつ、地域一体となったプロモーションを強化して魅力を発信することで、着実にリピーターを増やし、安定した観光客数を確保していくことが必要です。
- 東三河地域はゴールデンルート上に位置しているため、外国人旅行者が増加しているものの、宿泊や飲食のみにとどまっているのが現状です。今後は、東三河の観光資源を磨き上げ、地域の魅力を高めるとともに、多言語による案内などの受入体制の整備を進めること等により、滞在時間の増加や他のスポットへの誘導等、観光に結び付けていくことが求められます。
- また、観光案内所や道の駅などにおける案内業務の充実を図るとともに、不足しがちである、道路、駐車場、トイレ、Wi-Fi 設備等、観光客が利用するインフラも、既存のインフラの有効活用も含め、対応を考えていく必要があります。

### 3 「人が輝き活躍する東三河」の実現（計画期間：2018年度～2020年度）

#### (1) 目標達成状況

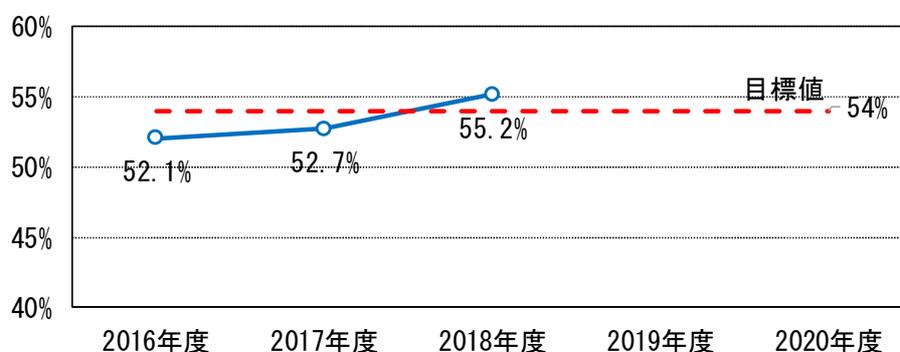
項目	数値目標	計画当初	達成状況
目標1 東三河の就職件数に占める女性の割合	54% (2020年度)	52% (2016年度)	55.2% (2018年度)
目標2 東三河の就職件数に占める高齢者（65歳以上）の割合	7% (2020年度)	5% (2016年度)	7.3% (2018年度)
目標3 東三河のシルバー人材センターの登録者数	4,600人 (2020年度)	4,300人 (2016年度)	4,546人 (2018年度)
目標4 東三河4大学の学生の東三河の企業に対する認知度	50% (2020年度)	29% (2018年度※)	29% (2018年度※)

※本プラン策定時（2017年度）には未調査であり、2018年度に初めて調査を実施したため、計画当初と達成状況の年度が同一。今後、毎年度調査を実施し、目標達成状況を確認。

#### 目標1 東三河の就職件数に占める女性の割合

- 子育てがしやすい社会基盤や就労環境の整備等、女性の活躍に向けた取組の成果が直接反映されるため、「東三河の就職件数に占める女性の割合」を本プランの成果指標とし、2020年度までに54%を達成する目標としています。
- 県では、「女性の活躍促進サミット2018」や「あいち女性輝きカンパニーの認証」、「あいち農業女子交流会」、「愛知県内一斉ノー残業デー」など様々な取組が進められました。
- 市町村においても、「女性限定の移住・定住体験ツアー」、「育児相談」、「子育て支援情報の充実」や「子育て支援センターの充実」など様々な取組が進められました。
- 以上の取組を推進した結果、数値目標は既に達成されました。

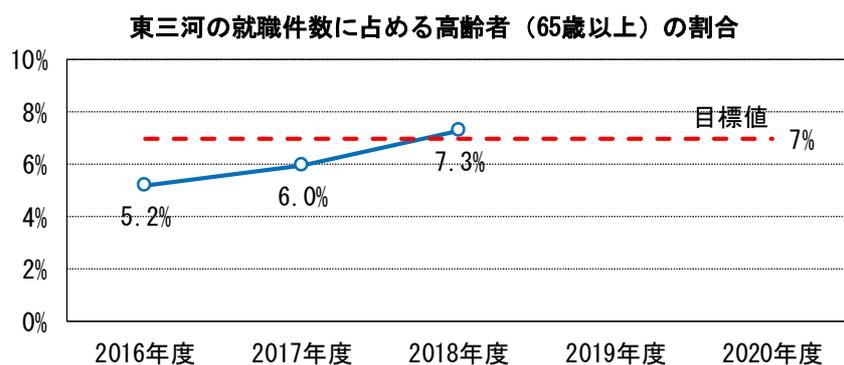
東三河の就職件数に占める女性の割合



出典：愛知労働局「愛知労働局年報」及び「聞き取り結果」より加工

## 目標2 東三河の就職件数に占める高齢者（65歳以上）の割合

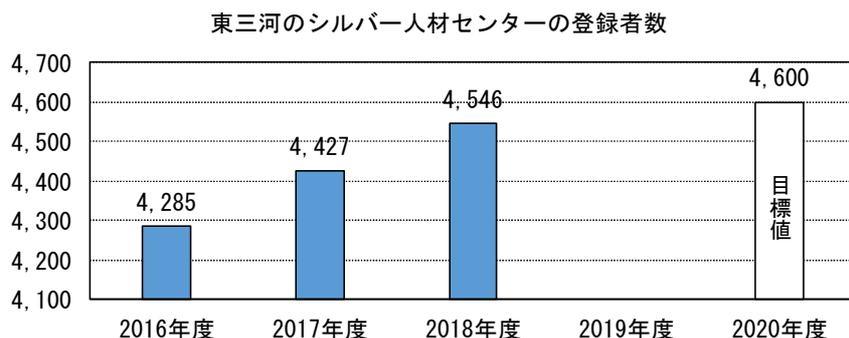
- 高齢者が地域で働ける場の拡大等、高齢者の活躍に向けた取組の成果が直接反映されるため、「東三河の就職件数に占める高齢者（65歳以上）の割合」を本プランの成果指標とし、2020年度までに7%を達成する目標としています。
- 県では、高齢者の多様なニーズに対応した「企業と高齢者のマッチングを図るための就職面接会」などの取組が進められました。
- 市町村では「農業人材バンクの運営」、農業団体では「無料職業紹介所の運営」などの取組が進められました。
- 以上の取組を推進した結果、数値目標は既に達成されました。



出典：愛知労働局「愛知労働局年報」及び「聞き取り結果」より加工

## 目標3 東三河のシルバー人材センターの登録者数

- 高齢者については、雇用以外にも様々な社会参画の形があります。シルバー人材センターは、「高齢者が働くことを通じて生きがいを得る」ことや「高齢者の社会参加により活力ある地域社会をつくりだす」ことを目的としており、ボランティアなどの社会貢献活動も行っていることから、「東三河のシルバー人材センターの登録者数」を本プランの成果指標とし、2016年度から約7%増加させ、2020年度には4,600人とする目標としています。
- 県では、間接的な取組として、高齢者の健康と体力の保持、増進を図る「老人クラブ活動への助成」などの取組が進められました。
- 市町村においても、シルバー人材センターが実施する子育て世帯の家事等の支援サービス事業に対して補助する「子育て世帯生活支援事業」などの取組が進められました。
- 以上の取組を推進した結果、数値目標に大きく近づいてきています。



出典：公益社団法人 全国シルバー人材センター事業会 HP  
愛知県シルバー人材センター連合会提供資料

#### **目標 4 東三河 4 大学の学生の東三河の企業に対する認知度**

- 若者については、各方面で東三河の仕事環境に関する情報提供の取組が重点的に行われており、成果を把握する上で、「地元企業の認知度」を本プランの成果指標とし、2020 年度までに 50%を達成する目標としています。
- 地元企業の認知度については、2018 年度に東三河 4 大学の学生にアンケート調査を行い、現状を把握しました。その結果、地元企業の認知度は 29%と、目標値に対して乖離があります。

#### **(2) さらなる「人が輝き活躍する東三河」の実現に向けて**

- 「東三河の就職件数に占める女性の割合」、「東三河の就職件数に占める高齢者の割合」、「東三河のシルバー人材センターの登録者数」の数値目標は、概ね達成しました。
- しかしながら、現状に満足することなく、引き続き、女性や高齢者を含め、誰もが能力を最大限に発揮できる環境づくりを推進してまいります。
- 一方で、「東三河 4 大学の学生の東三河の企業に対する認知度」は、計画初年度ではあるものの、目標値との乖離が大きく、企業と学生の新たなマッチング手法（モグジョブ・まじカフェ）を充実させるなど、地域が連携した地元企業の認知度を向上させる取組を強く進めていく必要があります。

## 4 世界・全国レベルのスポーツ大会等を活かした地域連携（計画期間：2018年度～2020年度）

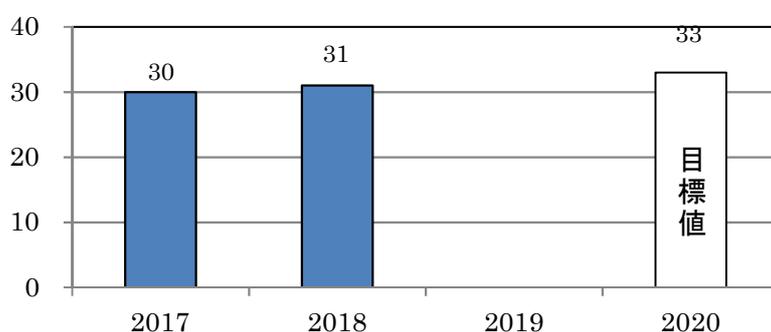
### （1）目標達成状況

項目	数値目標	計画当初	達成状況
目標 1 スポーツ大会の参加者数	33 千人 (2020 年)	30 千人 (2017 年)	31 千人 (2018 年)
目標 2 スポーツ大会の観客数	180 千人 (2020 年)	172 千人 (2017 年)	222 千人 (2018 年)
目標 3 スポーツ大会のボランティア数	8 千人 (2020 年)	7 千人 (2017 年)	7.4 千人 (2018 年)

#### 目標 1 スポーツ大会の参加者数の増加

- スポーツ大会の参加者数については、2017 年から 3 千人増加させ、2020 年には 33 千人とすることを目標としています。
- 2018 年のスポーツ大会の参加者数は、31 千人となりました。悪天候により中止となった大会があり、この影響を除けば、計画当初の 2017 年より 2 千人増となります。

スポーツ大会の参加者数の推移と目標値（千人）

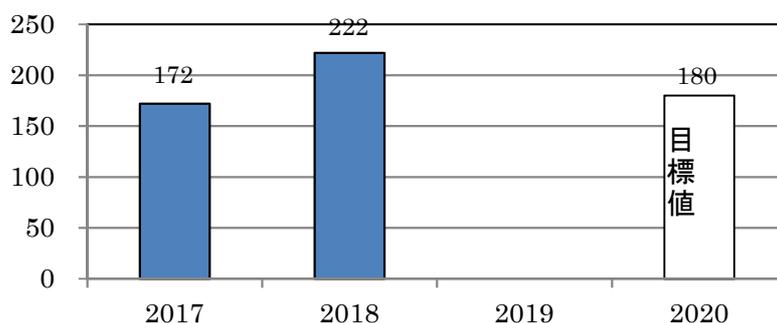


愛知県東三河総局調査による。

#### 目標 2 スポーツ大会の観客数の増加

- スポーツ大会の観客数については、2017 年から 8 千人増加させ、2020 年には 180 千人とすることを目標としています。
- 2018 年のスポーツ大会の観客数は、222 千人となり、2017 年から 50 千人増加しました。これは、「2018 アーバンリサーチ ISA ワールドサーフィンゲームス」の開催の効果が大きく出ています。

スポーツ大会の観客数の推移と目標値（千人）

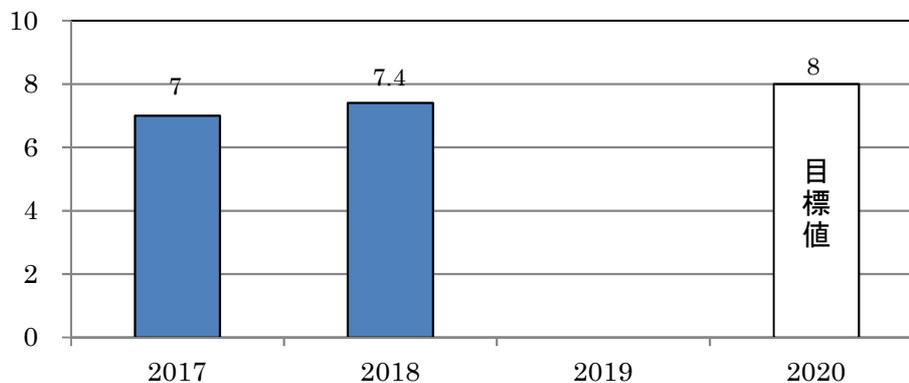


愛知県東三河総局調査による。

### 目標3 スポーツ大会のボランティア数の増加

- スポーツ大会のボランティア数については、2017年から1千人増加させ、2020年には8千人とすることを目標としています。
- 2018年のスポーツ大会の観客数は、7.4千人となり、2017年から0.4千人増加しました。

スポーツ大会のボランティア数の推移と目標値（千人）



愛知県東三河総局調査による。

#### (2) さらなる世界・全国レベルのスポーツ大会等を活かした地域連携に向けて

- 愛知県最高峰の茶臼山や津具高原、四谷千枚田、鳳来寺、湯谷温泉など奥三河の観光資源が楽しめる、愛知県初の本格的な中距離トレイルランニング大会「奥三河パワートレイル」には、愛知県外からも多数のランナーが参加しており、地元住民も一体となって大会を盛り上げています。
- また、近年は自ら競技する人のみではなく観戦する人も増えつつあります。  
「新城ラリー」には5万人以上の観戦者が訪れ、豊橋市総合体育館をホームアリーナとした「三遠ネオフェニックス」のゲームの観戦者も増加しています。
- さらには、田原市においては、9月に世界的なビッグイベント「2018アーバンリサーチ ISA ワールドサーフィンゲームス」が開催され、観客数が50,000人を記録しました。
- こうした世界・全国レベルのスポーツ大会の増加に伴い、多くの競技者や観戦者が東三河を訪れ、宿泊・飲食・地域製品の購入等の域内消費による経済効果や競技者・観戦者・大会支援者の間での交流が生まれています。
- 今後も引き続き、世界・全国レベルの大会を活かした地域の連携により極上のスポーツフィールドとしての東三河のイメージを確立する必要があります。